

令和元年度 男女間における暴力に関する調査結果の概要について

1 調査概要

- (1) 調査対象 県内全域の 20 代から 70 代までの男女各 1,000 人(計 2,000 人)
 (2) 調査期間 令和元年 10 月～11 月
 (3) 調査方法 郵送返送方式
 (4) 回収率 48.2% (男性 401 人、女性 560 人 (計 961 人))

2 調査結果の概要

(1) 夫婦間等における暴力(DV)行為に対する意識

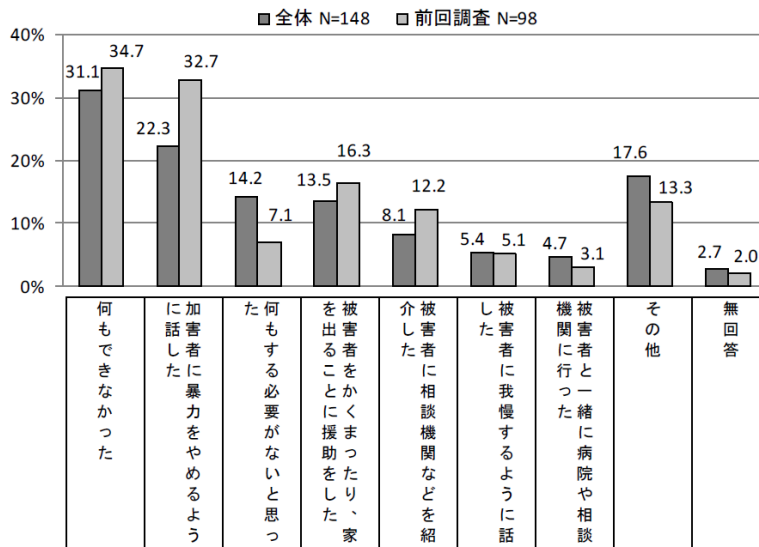
- ・身体的な暴力行為は夫婦間でも「暴力」との認識は高く 9 割を超えている。
- ・精神的な暴力行為は「暴力」との認識は低い。

「物でなぐったり、投げつけたりする」(96.8%)、「刃物をつきつける、なぐるふりをするなどして、おどす」(96.5%)、「手でぶつ、足でけるなど」(96.5%)

「何を言っても長期間無視し続ける」(41.0%)
 「電話・メールなどを細かく監視する」(48.7%) など

(2) 身近な暴力被害への対応 (複数回答)

- ・前回調査と比べ「加害者に暴力をやめるように話した」人の割合が 10.4 ポイント減少。



(3) DV防止法の認知度

- ・DV防止法は 90.1%が知っており、前回調査に比べ 5.4 ポイント増加。(全国:88.0%)

(4) 相談窓口の認知度 (複数回答)

- ・相談できる窓口としては「警察相談ダイヤル(警察)」(33.7%)が最も多く認知されている。〔県女性相談センター(30.3%)、市町村のDV相談窓口(20.8%)〕

(5) 配偶者・パートナーへの加害経験

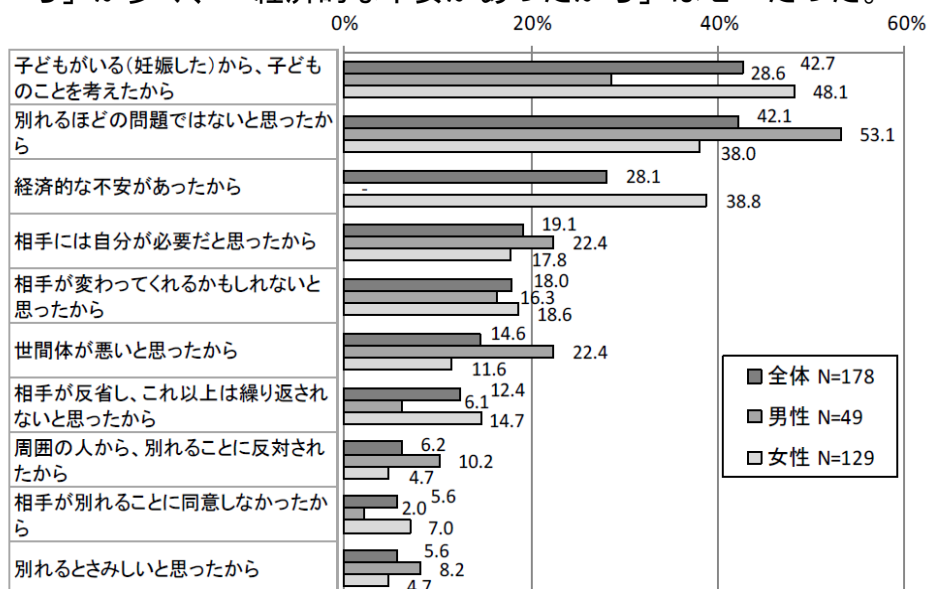
- ・配偶者・パートナーへ何らかの加害経験のある人は 23.0%(男性 28.4%、女性 19.6%)となっている。(前回調査に比べ 2.4 ポイント増加)
- ・理由としては、「つい、カッとなってやってしまった」(42.3%)が最も多くなっている。

(6) 配偶者・パートナーからの被害経験

- ・配偶者・パートナーから何らかの被害経験のある人は 25.6%(男性 18.8%、女性 30.0%)となっている。(前回調査に比べ 2.9 ポイント増加)

(7) 別れなかった理由（複数回答）

- ・男女別に比較すると、女性は「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」「経済的な不安があったから」が多いが、男性は「世間体が悪いと思ったから」が多く、「経済的な不安があったから」はゼロだった。



(8) DV被害者の子どもへのDV加害者（配偶者）からの虐待（複数回答）、面前DVの認知状況

- ・DV被害者の子どもへのDV加害者（配偶者）からの虐待は「心理的虐待」（16.6%）、「身体的虐待」（12.0%）、「ネグレクト」（0.6%）となっている。
- ・面前DV（子どもの前での暴力等）が児童虐待にあたることを「知らない」（51.6%）が、「知っている」（46.3%）を5.3ポイント上回った。

(9) 10歳代から20歳代における暴力の経験

- ・デートDVについては65.5%が言葉については知っており、前回調査に比べ6.3ポイント増加。
- ・交際相手への加害経験があったとした割合は5.9%と前回調査に比べ0.8ポイント減少。
- ・交際相手からの被害経験があったとした割合は14.4%と前回調査に比べ5.4ポイント増加。

(10) 男女間における暴力を防止するための対策と被害者への支援（複数回答）

- ・「相談しやすい環境を整備する」が56.7%と最も多くなった。

